


銅・アルミレポート

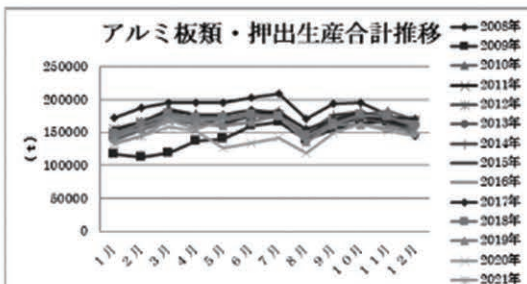
橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



7月のアルミ概況及び8月の見通し (3)

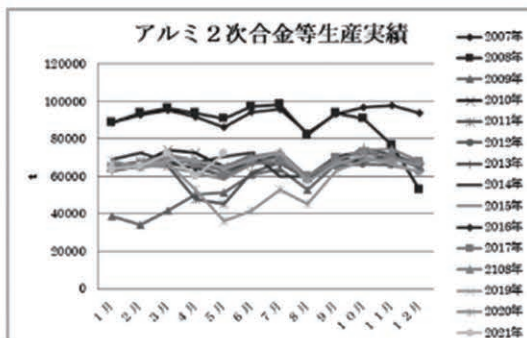
【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比+25.2%の16万8,101 tで6カ月連続プラス。



【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比+74%の7万2,297 tで8カ月連続プラス。出荷は+73.4%の7万3,026 tで8カ月連続プラス。



国内概況まとめ

【自動車生産】

生産動態統計によると6月の自動車生産台数は前年比+41.4%の69万4,241台。輸出は+76.3%の33万9,014台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると7月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+3.3%の24万7,148台。

内訳は乗用車が+25%、貨物は+9%、バスは-34.3%。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比が+25.2%の16万8,101 tで6カ月連続プラス。

板類は、10万4,345tの+24%で6カ月連続プラス。押出類は、6万3,756tの+27.1%で4ヶ月連続プラス。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比は+74%の7万2,297 tで8カ月連続プラス。出荷は+73.4%の7万3,026 tで8カ月連続プラス。

【見通し】

【自動車】

4月の自動車生産が+64.1%。6月国内販売台数が前年比+3.3%。生産急増は半導体不足の影響はないとの認識。ただし、販売の増加率が減ってきている。今後生産、特に販売が増加していくか注視。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比+25.2%の16万8,101 tで6カ月連続プラス。今後プラスが続くかの動向に注視。

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比は+74%の7万2,297 tで8カ月連続プラス。出荷は+73.4%の7万3,026 tで8カ月連続プラス。今後、プラスが続くか注視。

・アルミ輸出は相場の急騰や外需が比較的好調なことを受けてアルミ地金以外大幅増。

・アルミ輸入は国内自動車販売の好調から大幅増。

【スクラップ景況予想】

流通(一次問屋)在庫はLME価格が2,500~2,600ドル台で高止まりしたことより玉不足は続く。

要面に関しては前月に続き販売が堅調な事による材料不足や国際相場の高騰からの輸入玉の不足からメーカー在庫は気薄。

【LME・為替予想】

今月は①コロナ感染拡大動向(デルタ株による)②米中の景気動向に左右される。

①に関しては、ワクチン接種によって感染拡大が治まった欧米が、新株(デルタ株)に再び感染拡大の危機に陥っている。ただ、感染はするが実際のところ死亡者数は極端に減った。例えば人口の72%がワクチン接種を終えてる英国では死亡率がほぼゼロになってきており感染拡大が防げるのではないかと。

②に関しては、直近の景気指標で中国が7月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は50.4と、前月の50.9から低下し、中国政府が新型コロナウイルス対策でロックダウン(都市封鎖)を開始した2020年2月(35.7)以降で最低となったこと。

米国も7月の米製造業景況感指数は59.5と前月から低下し、ダウ・ジョーンズまとめの市場予想(60.8程度)も下回ったことなどから追加的景気対策が無ければ失速するのではないかと。

これらを踏まえた8月のアルミ価格は2,500—2,650ドル(セツル)との予想。

ドル円値は109円~111円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては据え置きから+5円程度と予測している。

(「7月のアルミ概況及び8月の見通し」おわり)